

令和7年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

| (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 | | 考察 |
|--|--|--|
| 1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に向けて努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など) | 2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。 | 年間を通して行う道徳の授業を中心に、豊かな心を育む教育の充実に向けて努めている。12月には「家庭道徳の日」で道徳の公開授業を行い、親子で感想交流を図る取り組みを実施した。さらに第5学年で学んだ「水俣病学習」や第6学年で学んだ「平和学習」を、班ごとに各学年の教室に向いて発表する「いのちの学習」にも全校で取り組んだ。また「すこやかカード」や「メディアコントロール」により生活習慣の見直しに取り組んだり、学校保健委員会を実施し、持続可能で楽しいゲームとの付き合い方について考える機会を設けるなど、保健指導や健康教育を推進してきた。その結果、項目1の肯定的評価の割合が90%を超えるかまたは90%に迫り、豊かな心と健やかな体を育む教育が推進されていることがうかがわれる。 校内研修で「豊かな学び手の育成」という研究主題のもと、3つの課題テーマに沿ってグループごと話し合い全体で共有しながら、チーム研究に取り組んできた。その結果、項目2の肯定的評価の割合が保護者及び教職員については、どちらも90%を超えている。一方で、児童の肯定的評価の割合は80%に迫っているが、保護者及び教職員の評価に比べて低い。こどもが主体の授業づくりについて全職員で取り組んでいく。 |
| | | |
| (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 | | |
| 3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など) | | 中・高学年での総合的な学習の時間の授業における活動や特別活動を中心とした各教科等の関連内容により、学校生活や地域社会をよりよくするために、子ども同士で考えたり話し合ったりする取組を行ってきた。また、低学年の生活科の授業を中心として、校外学習で地域の事業所を訪問したり地域の方に来校していただき一緒に触れ合ったりする中で、地域との連携を深めている。その結果、項目3の肯定的評価の割合が、保護者と教職員については90%を超えている。一方で、児童については肯定的な評価の割合が約70%にとどまっていることから、地域関連の行事等を児童に主体的に企画させたり、意見を反映したりする機会を増やすよう努める。 |
| | | |
| (2) こども一人一人を尊重した教育の推進 | | |
| 4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。 | 学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。 | 取り組むべき課題を自ら決定し、他者と協働して有効な解決策をつくり出す力を身につけさせるため、校内研修で教職員が「子どもの学び方」「子どもが主体の学級づくり」「異なる他者との学び合い」の課題別チームに分かれ、授業づくりの研究に取り組んだ。その結果、項目4では児童の割合は約70%にとどまっているものの、保護者と教職員の肯定的な評価の割合が80%を超えている。項目5でも、全体的な肯定的な評価は高いと言えるが、児童の割合は、保護者と教職員に比べて低い。こどもが個別最適な学びと協働的な学びを実感できるような授業づくりに、全教職員でより一層取り組んでいく。 |
| | | |
| (2) こども一人一人を尊重した教育の推進 | | |
| 6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。 | 7 インクルーシブ教育の推進 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。 | 毎週水曜日に行っている「子ども支援夕会」において、児童の共通理解を図るとともに、定期的にケース会議を実施し、チームとして児童の支援に努めてきた。また、毎月実施している生活アンケート「にこにこアンケート」後には、必要に応じて個別相談を行い、児童一人一人への指導や対応を行ってきた。その結果、項目6、項目7ともに、保護者と教職員の肯定的な評価の割合は80%を超えているが、児童の肯定的な評価の割合は低い。特別支援教育コーディネーターを中心に、今後も職員間で連携を図りながら、児童一人一人に寄り添った支援体制を継続していく。 |
| | | |

| (3) 最適な教育環境の整備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|-----|------|------|------|-----|------|--|-----|----------|-----|------|------|------|-----|------|--|
| 8 安全・安心な園づくりの推進 | 9 地域や家庭と連携した教育環境の整備 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。 | 学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。 | 全校による避難訓練や各学年の発達段階に応じた安全教育に取り組んでいる。特に高学年においては、地域と連携した防災教育に取り組んだ。その結果、項目8の肯定的評価の割合は、90%を超えるかほぼ90%である。 また、授業参観後の学級懇談会や学級通信、学校だよりによる情報発信を通して、家庭との連携を深めるとともに、地域のボランティアによる授業支援や各学年の活動への支援、児童の登下校時の見守りなど、地域との連携・協力を推進してきた。その結果、肯定的な評価の割合は、いずれも80%を超えている。 今後も、安全・安心な教育環境を整備しながら、家庭や地域と一体となった教育活動を進めていく。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <caption>項目8の肯定的評価の割合</caption> <thead> <tr><th>対象者</th><th>肯定的評価の割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>約45%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>約45%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>約40%</td></tr> </tbody> </table> | 対象者 | 肯定的評価の割合 | 保護者 | 約45% | 児童生徒 | 約45% | 教職員 | 約40% | <table border="1"> <caption>項目9の肯定的評価の割合</caption> <thead> <tr><th>対象者</th><th>肯定的評価の割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>約45%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>約45%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>約60%</td></tr> </tbody> </table> | 対象者 | 肯定的評価の割合 | 保護者 | 約45% | 児童生徒 | 約45% | 教職員 | 約60% | |
| 対象者 | 肯定的評価の割合 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 約45% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 約45% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 約40% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象者 | 肯定的評価の割合 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 約45% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 約45% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 約60% | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| (4) こどものいのちと権利の擁護 | | | | | | | | | | |
|---|----------|---|-----|------|------|------|-----|------|--|--|
| 10 こどもの最善の利益を守る環境づくり | | | | | | | | | | |
| 学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。 | | 高学年の児童で組織している各委員会での活動を充実させるとともに、定期的に行う児童集会で、担当した委員会が独自に作成した内容を発表する機会を設けている。発表を聞いた児童から感想や意見を述べて返すことで、一方通行にならないよう努めている。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、児童や保護者との相談体制を整えている。その結果として、肯定的な意見の割合は、保護者と教職員についてはともに高いが、児童については約70%で比較的低い。また、保護者、児童ともに、他の項目に比べ「わからない」と回答した割合が比較的高かった。こどもの利益を守る環境づくりの在り方について、児童、保護者へのさらなる情報発信に努める。 | | | | | | | | |
| <table border="1"> <caption>項目10の肯定的評価の割合</caption> <thead> <tr><th>対象者</th><th>肯定的評価の割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>約35%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>約25%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>約25%</td></tr> </tbody> </table> | 対象者 | 肯定的評価の割合 | 保護者 | 約35% | 児童生徒 | 約25% | 教職員 | 約25% | | |
| 対象者 | 肯定的評価の割合 | | | | | | | | | |
| 保護者 | 約35% | | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 約25% | | | | | | | | | |
| 教職員 | 約25% | | | | | | | | | |

| 独自項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------|----------|-----|------|------|------|-----|------|---|-----|----------|-----|------|------|------|-----|------|--|
| 11 自他を大切にできる態度 | 12 友だちへの思いやり | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こどもは、他の人のことを考えて行動できていると思いますか。 | こどもは、友だちと仲良くしていると思いますか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <caption>項目11の肯定的評価の割合</caption> <thead> <tr><th>対象者</th><th>肯定的評価の割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>約30%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>約25%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>約10%</td></tr> </tbody> </table> | 対象者 | 肯定的評価の割合 | 保護者 | 約30% | 児童生徒 | 約25% | 教職員 | 約10% | <table border="1"> <caption>項目12の肯定的評価の割合</caption> <thead> <tr><th>対象者</th><th>肯定的評価の割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>約45%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>約75%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>約20%</td></tr> </tbody> </table> | 対象者 | 肯定的評価の割合 | 保護者 | 約45% | 児童生徒 | 約75% | 教職員 | 約20% | 項目11については、肯定的評価の割合が80%を超えるか80%に迫っている一方で、教職員の「そう思う」と回答した割合が他の項目に比べて低い。今後は他者への思いやりの気持ちを持ったり正しい行動を心がけたりするために、児童が自らの行動を適切に返られるような取組を進めていく。 項目12については、いずれも肯定的評価の割合が90%を超えている。児童同士の交友関係が概ね良好であり、たとえトラブルが発生したとしても、児童同士または担任等の職員との関わりによって概ね解消に導いた結果だと考えられる。今後は、職員全体で児童の普段の様子を注視し、状況に応じて適切に対処していく。 |
| 対象者 | 肯定的評価の割合 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 約30% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 約25% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 約10% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象者 | 肯定的評価の割合 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 約45% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 約75% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 約20% | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 13 基本的な生活習慣の定着 | 80 | | | | | | | | |
|---|----------|----------|-----|------|------|------|-----|------|---|
| こどもは、規則正しい生活を送れていると思いますか。 | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <caption>項目13の肯定的評価の割合</caption> <thead> <tr><th>対象者</th><th>肯定的評価の割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>約35%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>約35%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>約50%</td></tr> </tbody> </table> | 対象者 | 肯定的評価の割合 | 保護者 | 約35% | 児童生徒 | 約35% | 教職員 | 約50% | 項目13については、保護者、児童の肯定的評価が約80%であるのに対し、教職員については50%にとどまっている。また教職員が「わからない」と回答した割合も、他項目に比べて比較的高い。認識の違いは見られるが、基本的な生活習慣の定着には課題があると思われる。生活習慣の見直しについて、家庭と連携した取組を検討するとともに、家庭への協力をさらに求めていく必要がある。 |
| 対象者 | 肯定的評価の割合 | | | | | | | | |
| 保護者 | 約35% | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 約35% | | | | | | | | |
| 教職員 | 約50% | | | | | | | | |

来年度の具体的な取組について

(1) 「主体的に考え行動する力を育む教育の推進」については、年間を通じた道徳教育の充実やそれに基づく各学級での実践、「家庭道徳の日」の取組の継続、学校保健委員会や保健指導・健教教育の推進による豊かな心と健やかな体を育む教育を推進していく。また、校内研修のこれまでの取組を課題別グループごとや職員全体で検証しながら、こどもが主体の授業づくりの在り方について共通認識をさらに深めていくとともに、特別活動や生活科、総合的な学習の時間を工夫・充実させ、社会の形成に主体的に貢献する力を身につける教育活動に取り組んでいく。

(2) 「こども一人一人を尊重した教育の推進」については、校内研究を継続させながら、こどもが主体となって自らの方法で学習に主体的に取り組んだり、対話を通して他の人の考えや意見を取り入れたりする授業の工夫を図っていく。また、「子ども支援夕会」やアンケートを活用した教育相談などを定期的に行いながら、全教職員で共通理解を図るとともに、特別支援コーディネーターを中心とした児童一人一人に寄り添った支援体制を継続させていく。

(3) 「最適な教育環境の整備」については、全校集会や児童集会を通しての安全啓発や登下校指導、交通教室や自転車教室を通しての安全教育、避難訓練を通しての防災教育を年間計画に位置づける。特に防災教育については、地域団体との連携を図っていく。また、地域コーディネーターとの連携を密に図りながら、授業支援や学校活動への協力、児童の登下校時の見守りなど、地域学校協働活動を継続していく。

(4) 「こどものいのちと権利の擁護」については、児童が主体となって行う委員会活動の充実や児童集会の工夫を図りながら、児童の意見を反映させる機会を多く設ける。また、スクールカウンセラーによる児童へのカウンセリング等の相談体制について保護者に周知したり、必要に応じてスクールソーシャルワーカーを交えた家庭との連携を図ったりしていく。

(5) 「本校の教育」については、関係項目において保護者、児童、教職員で意識の差が見られたため、集会や学級活動を通して児童が自らの生活を見つめなおす機会を持たせていく。また、学校だよりや学年・学級通信を通して、情報提供や啓発を行いながら家庭との連携をさらに図っていく。

小中学校関係者評価

- ・校長、教頭をはじめとして、学校の受け入れ態勢が整っているため、これだけ地域と学校が協力できているんだと思う。
- ・地域とのつながりを大切に、こどもたちが考え、行動していく環境づくりが実践できていたのではないと思う。
- ・地域の方が教育活動に関心を持ち、支援などとても楽しそうに協力していただいていることに感謝している。
- ・学校教育活動については、学校だけではなく、学校支援ボランティア、地域の方の授業支援や学校活動への協力を得て十分行われていると思う。
- ・校区の安全マップづくりや全校行事など、工夫された活動が子どもたちを成長させていると思う。
- ・子どもたちが1つの活動を行うためには、それに向けての教師側の事前準備が必要であり、先生方の負担もかなり大きいと思う。精選しながら進めていくことも大切だと思う。
- ・先生と児童の信頼関係が構築されていて、素晴らしい授業だった。ゲームなどを取り入れ、楽しく遊ぶことで、主体的で対話的な深い学びにつながっていると感じた。